

確定日（令和02 年 03 月 30 日）

事業コード	06040306		政策コード	06	政策名	ふるさとの未来を拓く人づくり戦略							
事業名	秋田っ子元気アップ推進事業		施策コード	04	施策名	豊かな人間性と健やかな体の育成							
			指標コード	03	施策目標(指標)名	生涯にわたってたくましく生きるための健やかな体の育成							
部局名	教育委員会	課室名	保健体育課		班名	学校体育・部活動班		(tel)	5202	担当課長名	高橋 周也	担当者名	高田屋 馨
評価対象事業(計画)の内容											事業年度	令和02年度 ~ 令和06年度	
1. 事業立案の背景(施策目標の達成のために今なぜこの事業が必要なのか) 健やかな体の育成のためには体力の向上が不可欠であり、将来の秋田を担う子どもたちにとって、社会を生き抜くたくましさにつながっていく。					3. 事業目的(どういう状態にしたいのか) 教員の指導力の向上と体育・保健体育授業の充実により、児童生徒の望ましい運動習慣確立及び体力の維持向上につなげる。								
					(重点施策推進方針との関係) 重点事業として要望 その他事業として要望								
2. 住民ニーズの状況 ニーズを把握した対象 受益者 一般県民 (時期: 年 00 月) ニーズの把握の方法 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット その他の手法 (具体的に) ニーズの具体的内容 児童生徒の発達の段階に応じた望ましい運動習慣の確立を推進することで、体力の維持向上や運動習慣の二極化傾向の改善が求められている。					4. 目的達成のための方法 事業の実施主体 県・市町村 事業の対象者・団体 児童生徒、教員等 達成のための手段 教員の指導力の向上に向けた研修会等の実施や、外部指導者の派遣を支援することで、授業の充実を図る。また、体力向上に向けた啓発資料の作成・配付や雪国である本県の自然条件を生かし、積極的にウインタースポーツに親しむことを支援し、冬期間の児童生徒の体力の維持向上を図る。								
					比較した代替手段及び選択した手段の有効性 指導者の指導力向上が運動好きな児童生徒の増加につながり、結果として児童生徒の体力向上が図られる。冬期間の運動機会の確保により、児童生徒の体力向上を望むことができる。								
把握してない場合の理由及び今後の方針													
理由													
今後の方針													
5. 事業の全体計画及び財源 単位(千円)													
順位	事業内記		左の説明			02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	全体(最終)計画	
01	体育に関する指導サポート事業		主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進及び児童生徒の運動習慣の二極化傾向の解消と体力水準の引き上げを図る。			373	373	373	373	373	0	1,865	
02	ウインタースポーツ奨励事業		本県の自然条件や特色を生かし、体育的活動を通して積極的にウインタースポーツに親しむことを支援し、児童生徒の体力の維持・向上を図る。			350	350	350	350	350	0	1,750	
財源内記		左の説明				723	723	723	723	723	0	3,615	
国庫補助金						0	0	0	0	0	0	0	
県債						0	0	0	0	0	0	0	
その他						0	0	0	0	0	0	0	
一般財源						723	723	723	723	723	0	3,615	

6．事業の効果を把握するための手法及び効果の見込み

事業の期待される成果

将来の秋田を担う子どもたちが、生涯にわたり豊かなスポーツライフを実現していくことができる。

指標名

小・中・高等学校における体力合計点のT得点による推移

指標の種類

指標式

小・中・高等学校における体力合計点のT得点による推移

成果指標
業績指標

年度別の目標値（見込まれる成果による指標）

指 標	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	最終年度
目標a		53.3	53.6	53.9	54.2	54.5	54.8	
実績b			データ等の出典					
東 北			新体力テストによる体力・運動能力調査					
全 国								
把握する時期		当該年度中02月		翌年度 月		翌々年度 月		

指標名

体育・保健体育における「大好き」「好き」の割合

指標の種類

指標式

体育・保健体育における「大好き」「好き」の割合

成果指標
業績指標

年度別の目標値（見込まれる成果による指標）

指 標	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	最終年度
目標a		88.1	88.1	88.1	88.1	88.1	88.1	
実績b			データ等の出典					
東 北			秋田県学習状況調査（小4～中2）					
全 国								
把握する時期		当該年度中10月		翌年度 月		翌々年度 月		

指標を設定することができない場合の効果の把握方法

指標を設定することが出来ない理由

見込まれる効果及び具体的な把握方法(データの出典含む)

事業の必要性

現状の課題及び施策目的に照らした事業の必要性

本県児童生徒の新体力テストにおける体力合計点の平均値は、全国平均を上回る良好な状況を維持しているが、校種や学年が進むにつれて、運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向がみられる。その改善に向けて「運動やスポーツすることが好き」という子どもたちが「大好き」「得意」となるようにするとともに、運動が苦手な子どもたちにも、

住民ニーズに照らした事業の必要性

児童生徒の発達の段階に応じた運動習慣の確立を推進することで、体力の維持向上や運動習慣の二極化傾向の改善が求められている。

事業の県関与の必要性

法令・条例上の義務 内部管理事務 県でなければ実施できないもの
民間・市町村で実施可能であるが、県が関与する必要性が認められるもの

教員の指導力の向上は県でなければできない。

政策評価委員会意見

重点事業の適合及び指標・目標値の適合性判定

重点事業

その他